

## 第61回全日本弓道遠的選手権大会

## 山口亮二 選手 堂々3位入賞



平城遷都1300年祭を記念して平城宮跡の特設射場にて10月23日、24日に開催。開会式には高円宮久子妃殿下がご来臨、荒井県知事、仲川奈良市市長などを来賓に迎え花を添えました。全国から男子101名、女子88名が参加し熱戦を繰り広げました。主管として運営を担った奈良県弓道連盟の多くの会員が舞台の表と裏で大会を支え大成功を収めることができました。その経験と感動を記憶に残すべくその特集号を発行いたします。

## \* お天道さまに感謝

## 大会委員長

最初、平城宮跡で遠的大会をやると聞いて、はたしてうまくできるのかと、正直、半信半疑でした。しかし、皆様のご協力のおかげで、準備も着々と進み、無事大成功のうちに終わることができました。

まず、一番心配していた天候も、この上もない条件で行うことができました。

高円宮妃殿下を迎えて、仮設道場での全国大会。何もかも初めてのことで、いろんな面で良い経験をさせていただきました。県連会長の私にとって、何よりも一番うれしかったのは、県連会員のパワーを感じ取れたことでした。直接運営に携わってくださった方々はもちろん、それ以外の方々の目に見えない応援もたくさんありました。今大会の成功は、天を味方に、皆様のおかげです。ありがとうございました。

奈良県弓道連盟 会長 吉本清信

## \* 競技副委員長として

須田 三郎

山口君は最初から良いテンポで行射していただけたのに、決勝5本目はなんとも残念でしたが、地元の応援団・観衆を前にしての健闘は見事でした。入賞おめでとうございます。

草むらでの仮設射場で、本当に全国大会?..という思いが当初の正直な気持ちでしたが、99%の出来で終了できたことは賞賛に値します。全弓連事務局や競技委員澤田範士の助言が陰の大きな力ではありましたが、吉本会長以下、理事長・総務部長を中心とした県内各委員のチームワークも素晴らしく、県連の実力を大いに発揮しました。

場内からの目線で感じたのは、大会運営が全弓連の「弓道競技運営要領」に正確に準拠して進められたことで、射場進行委員の足の運び一つもいい加減ではありませんでした。今後はこうした経験を県内大会にも活かし、射技・体配とも併行して県連のレベル向上に努めなければならず、各支部活動においても平素から十分に意を配り、行事運営の質の向上に努めていくことが大切と感じました。

射技・体配については、矢渡をされた石川武夫先生の、悠揚とした中にも細部に配慮の行き届いた演武を目の当たりにし、範士という高い立場にある方の格の違いに改めて感銘を受けました。



開会式  
高円宮妃殿下のお言葉



## \* 総務委員長として

西中 正

大会の運営が、連盟の皆様の協力のもと、無事終わることができたことを安堵しています。

9月初旬、猛暑の中、現地会場予定地視察に行き草原の中、徒歩移動数百メートル、まして当日雨天にでもなったら等、心配事が限りなく思いつかれ、途方に暮れたものです。全国から代表選手を迎え、ベストの環境を準備、提供すべく苦慮が始まりました。

10月初旬、選手権大会をひかえ役員構成組織をつくり、当大会に携わる全員が連携を密に、短期間ではありましたが、滞りなく大会を墜行できたことは奈良県弓道連盟の集結力を誇示できたように思います。

平城遷都1300年祭の記念遠的大会が連盟全員の協力で成功裏に終えられたものと自負！皆様にも生涯の思い出となりますように。今後も皆様には連盟の意図をくみ参加、協力を惜しみなく、よろしく願います。

## \* 射場委員長として

西浦 範光



大会の2日前（21日）から準備に出かけ、その日1日でぐったりとくるぐらい疲れました。何故かという、全弓連の担当者であ

る愛知の澤田範士が午前の早くから来られ、それこそ1～10までを事細かくマニュアルに沿うように指導されました。「この大会の運営は進行と放送で全て決まる。」とプレッシャーをかけられ、それこそあまり経験のない私にとっては大変な思いでした。澤田先生の言葉を全て、まず頭でしっかり理解することに努めようと思いました。しかし、射場に関する細かい箇所まで及ぶ命令の全ては私に向くので、そのことを処理するのが大変でした。

しかし、射場関係の進行と招集の担当者や総務の方々の協力で準備を整えることができました。周りのみんながそれぞれの分担をしっかり責任を持って遂行してくれたことが一番嬉しかったです。ただ、交代が居なくてトイレにもなかなか行ける状況ではありませんでした。奈弓連の会員はまだたくさん待機しておられる方がおりましたので、もう少し役員の人数を増やして欲しいでした。最後に一つ。宣告や「始め」を言う言葉に力が入り過ぎて周りにご迷惑をおかけしたこと、改めてお詫び申し上げます。でもいい経験ができました。ありがとうございました。

## \* 庶務委員長として

阪中 計夫

私たちの仕事は、大会当日はもとより、大会までの準備がメインという特性がありました。そのため運営資料や図面をもとに、備品の購入や文具の調達のほか、雨天を想定しての対応など、大会までのひと月くらいは終始打合せと材料収集におわれ、大会が始まるとすでに最終段階に入ったという感じでした。

当部では、接待関係は奈良市周辺、庶務については橿原市周辺のスタッフを中心にし、比較的人員の確保がしやすいところで構成したことにより、大会前からの打合せなども臨機応変に行うことができました。またそれぞれの部署で、リーダーになってもらった方々の力は想像以上に大きく、感謝するとともに任せることの重要性も感じたところです。



今後は県内全体からの協力が得られるよう、さらなる会員の増大・充実のため弓道普及に努め、再び全国大会の誘致が出来る力を持ちたいものです。

結論は「みんなやったらできるやん。」というものでした。

## \* 会場係として

森 昌彦

今回の手伝い依頼が来た時は軽い気持ちで引き受けました。第一回の説明会を聞いても何をするのかピンと来ませんでしたが、会場設営初日に理事長と現場へ行って色々説明を聞いて多少役割を把握する事ができました。

会場係の仕事は会場設営、警備です。役割分担をきめて準備は万端と思って初日を迎えました。宮様ご臨席の関係で予想以上に警備に人が執られ少々バタつきましたが、的前の設営であった大工方北村さんと森内さん、小林さんをはじめとする9名の設営員から警備員への早代わりのおかげで会場係の仕事は一応成功したと思います。

大会中の一番の悩みは雨対策でした。天気予報に翻弄され2日目の正午に雨具一式用意することを決断しました。結局雨は降りませんでしたが備えあれば憂いなし。この大会が天気に恵まれて滞り無く終わったという部分では大成功だったと言えるのでは無いでしょうか。

一つ残念な点は選手控室でのトラブルで選手の皆さんに不愉快な思いをさせたことです。原因は役員間の情報の共有が無かった事ではと思われま



## \*会場係日記

北村 良文

9月中旬

新司先生から遠的台製作依頼あり。

10月14日

設営会場に全日本弓道連盟の澤田先生をお迎えして遠的台確認を頂き、追加、加工指示あり。

10月21日

会場にて畳マットに布着せ、的枠にダンボール紙張り合わせ。マット布着せに時間要し眞鍋、伊藤西尾、天野各氏に手伝い頂く。

10月22日

選手の練習始まる。さすが代表選手見る間に蜂の巣状態。矢取りもハズレ矢が少ない為スムーズに。練習終了後、遠的台、的枠、マット共異常無く矢当たり良好。本番に向けてGO。

10月23日

矢渡し後競技的に取替も、増田、天野両氏の関係良く完了。予選事無く終了。

10月24日

決勝も的替無事終了。

担当部署のミスが無い様に日々翌日の行程を頭に入れ、事あればすかさず対応出来るように緊張の4日間でしたが、無事大会が成功裏に終了した事に感謝しました。

## \* 的前委員長終えて

前角 博

この大会には何らかの形で役員として協力したいと思っていました。しかし、まさか的前委員長などという大役を任せられるとは思っていません。大会が始まる前の週には理事長の叱咤激励もあり大会が近づくごとに緊張が高まってゆきました。そして大会が始まりました。高校生を含む役員や会場係の方々との打ち合わせをし、夕方には審判会議にも参加させて頂きました。審判会議は範士の先生方が大半でその中にある意味を感じ身が引き締まる思いでした。➤

その後、副委員長と約二時間、打ち合わせと最終確認をしました。

次の日競技が始まり、的前役員全員が運営に支障を来すような動きをしないようにと願ってました。しかし、役員の方々は非常にスムーズに各々の仕事をこなしてくれました。二日間の競技の中、おかげで一本の矢も見失うようなトラブルありませんでしたし、範士の先生方からのクレームも無く競技は終了しました。反省と言えば、競射の際の打



ち合わせを副委員長と全くしておらず、ぶっつけ本番で行いもたついた事がありました。

しかし、高校生も素

直によく動いてくれましたし、副委員長含め私より年上の方も私の指示をよく聞いて頂きましたし本当に役員全員に感謝です。この大会を通じ、今まであまり話す機会がなかった連盟の仲間と交流を持てた事が今後の連盟の発展に必ず繋がると感じました。大会の成功と共にその点凄くよかったです。

今回の役員の方のほとんどのかたが全国大会の運営の経験など無かったと思います。でも、力を合わせればこれだけの事が出来るという点に非常に感動しました。

## \*\* 奈良県代表選手の声 \*\*

### ☆ 長濱 有美選手

今回、5年ぶりに出場させて頂きました。

子供中心の生活で、ろくに稽古も出来ない状況でしたが、家族や周りの皆様のご協力のおかげで、落ち着いて臨む事が出来ました。

結果は散々たるもので、情けなく恥ずかしい思いでいっぱいです。申し訳ありませんでした。

ただ、自分としては、とても集中して引けたように思います。的には中あたりませんでした。自分の射をする事を一番の目標にしていたので、その点は少しは実践出来たかな、と思っています。

今回、改めて弓を引く楽しさ・悔しさを感じました。とても良い経験をさせて頂いたので、これからの成長につなげたいと思います。 本当にありがとうございました。

## ☆ 西田 ゆり選手



## 「宣誓」

10月の始め、吉本会長から「西田さん、女子の一番で宣誓だよ。」と言われ「えっ！」と一瞬ことばに詰まってしまいました。選手宣誓など今までしたことがなく、まず頭に浮かんだのは通常のスポーツの宣誓でした。「私達はスポーツマンシップにのっ

り・・・」しかしそれでは弓道の宣誓としては合わないと思い、弓道教本を読み直し、先生方のアドバイスを仰ぎ今回の宣誓文が出来ました。そして、弓道では宣誓文を読み上げるとの事で、竹村先生に文を清書して頂き、準備は整いました。次は練習です。所作や礼の仕方も諸先生方にご指導頂き、読む練習もしましたが、人前で話すのは苦手なので心配でした。

そして、当日。高田宮久子妃殿下も来られて開会式が始まり、自分の出番が近づくにつれ緊張がピークに達し、いよいよ本番！とにかく練習通りにと、前に進み出ました。弓を引くより緊張しましたが、何とか滞りなく終える事が出来たのでホッとしました。

大会での成績は不甲斐なく、まだまだ精進が必要だと痛感しましたが、この貴重な経験を与えていただいた事と、ご指導して頂いた諸先生方、大会運営に尽力された皆様、応援して下さいました皆様方に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

## ☆ 山口 亮二選手

チーム「NARA」

僕は以前から、団体戦は大好きでしたが、個人戦には魅力を感じませんでした。その理由の一番に、一緒に戦ったからこそ喜びや悔しさを分かち合える仲間の有無、があります。

この大会では、団体戦意識を創るためにも「良い結果を出してサポートして頂いた方にお礼として報告する！」を目標にしました。

遠的指導のスペシャリスト大西先生をはじめ、一緒に練習してくれた弓仲間、応援に駆付けてくれた後輩達、大会に合せて弓を作って下さった弓師の方、万博にお邪魔した際、薄暗くなった的にライトを設置して下さいました方、大会中、目だけで合図して気を遣って話し掛けないでいてくれた方、話し掛けてくれた方、「これ食べ！」と色々下さった方、「食べたからには全部中てなわかってるよね？」とプレッシャーをかけて下さった方。 ➤

応援して頂いた皆さんと組んだ大きなチームの入賞だと思っています。

(でも、もし悪い成績だと皆さんにも責任があるんですよ。)(笑)

次回は誰が選手役になるか分かりませんが、みんなで日本一のチームを作り上げましょう！ありがとうございました。

## ☆ 藤岡 順選手

昨年から話題に挙がり、準備が進められてきた地元開催！遷都1300年祭にちなんで奈良県で開催され、無事に終わりました。天候にも恵まれ、雨にも遭わず雲のお蔭で西日にも邪魔されず、本当に良い大会だったと振り返ります。関わった県連会員の皆さん、役員の方、本当にありがとうございました。

さて、私の視点での試合を。私は88番で出場、呼吸と肚にテーマを絞って集中して入場、一本目を取り掛ける。膝が震えて腰が不安定に。上体にも力み残り、会で、さあ、これからという時に暴発気味に…。矢は的のかなり右に外れてしまう。乙矢は良い感触だったけど、ビクが出て動揺を鎮められず失中。集中力が足りなかったのか。結局、最初の一手は残念。自己分析と、ゴム弓で修正し、後半の四ツ矢に。

最初の一手では腰が開いていたのではないかと、腰にもテーマを設けて引く。結果は半矢。今度は4本ちゃんと飛ばせたことを素直に喜ぶ。しかし、6射2中で予選落ち。会場にも大きな溜息を吐かせてしまいました。

久しぶりの大きな大会、手先の力みや肚の意識、十文字の構成など反省するところが多く、良い勉強になりました。次の日は、朝のうち足を引き摺らなければいけない程の筋肉痛で、凄い力で踏ん張っていたんだと驚き、そんな緊張する場面で引く機会を与えて頂いたことに感謝しています。最後になりましたが、山口君、3位入賞おめでとう。



&lt;閉会（表彰）式&gt;